

インドのウエストナイル熱

2011年11月5日 ProMED 情報(The Hindu)



日本脳炎に似た最近の発熱疾患について調査していたところ、患者のうち数名がウエストナイル熱にかかっていることが確認されました。専門家は、ケーララ Kerala 州アーラプーザ Alappuzha 県やコッタヤム Kottayam ではウエストナイル熱が定着している可能性があるかと述べています。というのは、2006年の同州でのチクングニア熱発生の際、ウエストナイル熱への強い疑いが生じていました。インドCDCの副責任者も、2006年の出来事の主たる原因はウエストナイル熱ではないかと述べており、その際チェルタラ Cherthala 地区だけで57名が死亡しました。今回の国立ウイルス研究所(NIV)の調査では208名の検体のうち40%が陽性でした。

ウエストナイル熱の症状は日本脳炎やチクングニア熱と症状が類似していて、脳炎以外に高熱、倦怠感、関節痛が出現します。媒介蚊はヌマカ属 *Mansonia* とイエカ属 *Culex* です。重症例では死亡率が15%になります。

インドでは1956年に最初の症例が報告され、1973年にケーララ州でも確認されました。1980年には856名の検体のうち48.6%で抗体が確認されました。

〔ProMED 調整者〕

今回の報告はインドで最初の ProMED での報告になります。文献によると1952年にヒトからムンバイでウイルス抗体が確認されました。ウイルスの活動性はインド南部、中央部、西部から報告されています。